歴史総合-DX

 **1953年③（昭和28） 海外移住・海外引揚げ**

講和条約が発効した1952年（昭和27）に、日本の主権回復と共に再び国民の海外移住が可能となり、戦時中に閉鎖されていた「神戸移民収容所」が、10月に「神戸移住斡旋所」（後にさらに「神戸移住センター」と改称）の名称で再開された。同年12月には正月を目前に18家族54人を乗せた戦後初の計画移民としてブラジル移民の再開第一船が、神戸港からアマゾン流域のジュート栽培地に入植すべくブラジルへと渡航した。1953年(昭和28）からは本格的な移民送出として、ブラジルのアマゾン地域・中部ブラジル・南米パラグアイに690家族が入植した。一方で、戦争が終わって 8年が経過し、3年半前のGHQの発表では、旧満州の中国東北部や樺太島などでソビエト軍に拘束された抑留日本人の数は総計70万人に及び、GHQ発表1年後には日本人の送還は全て完了したとソビエトが発表したが、事実は異なり、抑留者のうち約6万人以上が、厳寒のシベリアでの食料不足と強制労働で命を落とすこととなった。1953年（昭和28）3月には帰還兵2000人を乗せた引揚げ船「興安丸」が、ナホトカ港から京都府の舞鶴港に到着したが、息子の帰国をこがれて来る日も来る日も港に通いつめた端野いせさんをモデルに反戦歌謡「岸壁の母」が作曲され、 1954年（昭和29）に歌手の菊池章子が歌い、レコード発売100万枚をこす大ヒット曲となった。それより以前の 1952年（昭和27）には、男女のすれ違いを脚本家・菊田一男が書いたNHKの連続ラジオドラマ「君の名は」 が放送され、「銭湯が空になる」という名コピーと共に当時の多くの人々が経験を余儀なくされた人生のすれちがいは共感を呼んで、翌1953年（昭和28）に映画化もされて社会現象になった。また、1953年（昭和28）の当時でも遠くはなれたフィリピンには戦時中のマニラで虐殺行為などを起した在外の日本人戦犯100名以上がモンテンルパ刑務所などに収容されていて、この年の春に歌手の渡辺はま子一行が現地を慰問し、「荒城の月」や囚人が作曲した「モンテンルパの夜は更けて」などを公演し、望郷の念に堪え切れない戦犯囚人は慟哭、その話が日本国内に伝わると救済活動が盛り上がり、その声がフィリピンのキリノ大統領を動かし、 7月4日の独立記念日に特赦がなされ、59人の死刑囚、 80人の有期刑・無期刑の囚人らは、死刑囚は終身刑に減刑されて巣鴨拘置所に、それ以外の戦犯は釈放となり、7月21日に横浜港に帰国した。一方、中国大陸には、満洲国や日中戦争などで戦犯容疑者が1500人以上いて、シベリアで5年間抑留後に捕虜として中国側に引き渡された者、国共内戦に残留日本人部隊として戦い、人民解放軍の捕虜となった者、731部隊の戦犯など中朝国境に近くに開設された撫順戦犯管理所に拘束され、1954年（昭和29）に「興安丸」で舞鶴港に多くが帰還したが、重要戦犯として特別軍事法廷の裁判を待つ身の日本人も存在した。